第６回　国際標準化対応支援委員会／運営委員会　国際会議出席報告書

資料 No.	＜SC62D 関係＞国際会議出席報告書
6-3／SC62D-①	SC62D/MT22「診断用及び患者モニタ用医用電子機器」米国／アンドーバ国際会議出席報告書 20090928-20091002
6-3／SC62D-②	SC62D/JWG7「自動式非観血血圧計」ドイツ／ベルリン国際会議出席報告書 20091214-20091216
6-3／SC62D-③	SC62D/JWG1&JWG5「人工呼吸器、パルスオキシメータ」米国／マサチューセッツ州ケンブリッジ国際会議出席報告書 20100105-20100114
6-3／SC62D-④	SC62D/MT22「診断用及び患者モニタ用医用電子機器」ドイツ／フランクフルト国際会議出席報告書 20100118-20100122
資料 No.	＜TC80 関係＞国際会議報告書
6-3／TC80-①	TC80 WG6「舶用航海及び無線通信装置とシステム／デジタルインタフェース」英国／ロンドン国際会議出席報告書 20100112-20100114
資料 No.	＜TC110 関係＞国際会議出席報告書
6-3／TC110-①	TC110/WG2/WG4/WG5/PT62629/PT62595/HHG/e-paper「IEC/TC110 プレナリー会議」日本／宮崎国際会議出席報告書 20091205-20091208
6-3／TC110-②	TC110/WG2/WG4/WG5/PT62629/PT62595/HHG/e-paper「IEC/TC110 プレナリー会議」日本／宮崎国際会議日本開催経費収支報告書 20091205-20091208

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：　6-3／SC62D-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：200 年 10 月 13 日

（報告者記載）整理番号：H21SC62D⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤 正章　報告書作成者氏名：真柄　睦、乾　清　（会社名）日本光電工業㈱、フクダ電子㈱

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62D/MT22 (半角)
SC62D/MT22	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	診断用及び患者モニタ用医用電子機器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2009 年 9 月 28 日 ～ 2009 年 10 月 2 日		
開　催　場　所	（国名）アメリカ	（都市名）アンドーバー	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Klaus Neuder	幹事国　ドイツ	
参　加　国及び 参　加　人　数	4 ヶ国、主な国名 ドイツ、アメリカ、スイス、日本、参加人数（9）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 真柄 睦(日本光電工業株式会社)、○ 乾 清(フクダ電子株式会社)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景：MT22 は、モニタ・診断機器（心電計、脳波計）に関する IEC 国際規格の改定を担当している。2005 年に大改訂された安全通則 IEC 60601-1:2005 第 3 版に対して、担当する個別規格との整合性を取る改定をしている。今春、下記規格の Committee Draft for Vote(CDV)が発行され、各国からのコメントが寄せられている。

・IEC 60601-2-23　経皮ガス分圧モニタ　・IEC 60601-2-26　脳波計　・IEC 60601-2-27　心電図モニタ
・IEC 60601-2-34　観血式血圧モニタ　・IEC 60601-2-49　多機能モニタ

目的：IEC 60601-2-27 心電図モニタ規格案に対するコメントを検討し、規格案の修正作業を行った。

成果：日本から、57 件のコメントを提出し、48 件はアクセプトされた。テレメータでは満足できない性能要求事項があることから、テレメータを適用範囲から除外するよう日本から要求した点については、テレメータに対する性能要求の緩和を検討することになり、実質的に要求が受け入れられた。EMC 試験については、診断装置であってライフサポート機器ではないこと、第 4 版がまだ審議中であることから、IEC 60601-1-2 第三版を参照することとし、他の MT22 規格にも水平展開することとなった。入力インピーダンスについては、ANSI/AAMI EC-13 を引用し、シングルエンドで 2.5 MΩ、差動入力間で 5 MΩとした。アクセプトされなかった項目の中には、技術的に大きな問題になるものはないが、図もしくは数値でゲイン表示を行うことや、アラーム不活性化のリモート機能を ON/OFF 可能とすることなど、既存製品の大部分が対応していない機能があり、今後も販売する製品については設計変更が要求される。アラーム規定については、副通則 IEC 60601-1-8 と異なる規定に関して異議を唱えるコメントが各国から寄せられた。しかし、現行の副通則が ICU など医療スタッフが、患者に付き添っていない状況を想定していない部分があり、安全を考慮して、異なる要求事項を規定することはやむを得ないとの結論に達した。なお IEC/SC62A と ISO/TC121/SC3 の JWG を再開し、IEC 60601-1-8 の改定作業を行うことになっており、そこで規定の見直しが行われる可能性がある。

問題点：アクセプトされなかった項目の中には、技術的に大きな問題になるものはないが、図もしくは数値でゲイン表示を行うことや、アラーム不活性化のリモート機能を ON/OFF 可能とすることなど、既存製品の大部分が対応していない機能があり、今後も販売する製品については設計変更が要求される。アラーム規定については、副通則 IEC 60601-1-8 と異なる規定に関して異議を唱えるコメントが各国から寄せられた。しかし、現行の副通則が ICU など医療スタッフが、患者に付き添っていない状況を想定していない部分があり、安全を考慮して、異なる要求事項を規定することはやむを得ないとの結論に達した。なお IEC/SC62A と ISO/TC121/SC3 の JWG を再開し、IEC 60601-1-8 の改定作業を行うことになっており、そこで規定の見直しが行われる可能性がある。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3／SC62D-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 12 月 25 日

（報告者記載）予算番号：H21SC62D⑬

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤 正章　報告書作成者氏名：兵後　充史　（会社名）日本光電工業(株)

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62D/JWG7 (半角)
SC62D/JWG7	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	自動式非観血血圧計
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2009 年 12 月 14 日 ～ 2009 年 12 月 16 日		
開　催　場　所	（国名）ドイツ	（都市名）ベルリン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dr. S. Mieke	幹事国　ドイツ	
参　加　国及び 参　加　人　数	6 ヶ国、主な国名 ドイツ、アメリカ、イギリス、オーストリア、ギリシャ、日本、参加人数（17）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 白崎 修 市川 勉(オムロンヘルスケア)、久代 登志男(日本大学)、○兵後 充史(日本光電)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

[背景]　JWG7 では、(1)ISO IEC 80601-2-30：自動血圧計の安全・基本性能規格、(2)ISO IEC 81060-2：:自動血圧計の臨床評価基準規格の制定作業を進めてきた。80601-2-30 は'09/01、81060-2 は'09/05 に正式発行されたが、JWG7 の主査(Dr.Mieke 独)をはじめ、ドイツ、UK、日本の委員は、両規格とも審議が不充分と考えており、両規格に対して早急に amendment を準備/発行することが前回会議(‘09/03 リューブリアナ)で決定された。

[今回の会議の目的]　前回会議でまとめた両規格の amendment 案に対するコメントを審議し、CD 案をまとめる。

[成果]

(1)安全規格 IEC80601-2-30：主に 201.12.1.107 項のシュミレータによる測定値再現性試験について議論があった。

①シミュレータ以外の方法について：新しい技術の導入を妨げるのでシミュレータ以外の代替的な方法（ソフトウェアや自動チェックサムによる方法）も許容されるべきというコメントが出されたが、General Requirement（IEC60601-1:2005）4.5 項に既に記述があると反論があり、今回の改訂では現状どおりとなった。

②対象とする試験について：

・破壊的な試験を対象外とすべきということを日本から提案したが、落下や防水性試験も正常使用であり、累積的影響によっても基本性能は維持されなければならない、として受け容れられなかった。

・アラーム機能、表示など測定精度に影響しない試験を除外すべきであるることを日本から提案したところ、除外する試験項目と各試験項目がなぜ除外可能かという理由を日本が来年２月末までに提出することとなった。

(2)臨床規格　ISO81060-2：主な議論は以下の通り

－腕周および患者分布(5.1.4 *Limb size distribution)について：原案では、カフの腕周範囲の上 1/4 と下 1/4 に被験者の 20%がいることは should（推奨）であったが、shall(強制)とすることになった。

－3 歳未満の聴診(5.1.3 Age distribution、5.2.2 Observer preparation)について：３歳未満は聴診が不可能ということで観血法基準だけしか認められていないが、最近の研究結果から 6 ヶ月から 3 歳まで聴診可能であること、また K5 音で正しく拡張期圧が測定できるとの報告があった（論文発行準備中）。本件について、Amendment に反映するかどうか議論したが、時期尚早であるとの意見により現状どおりとすることになった。

－両腕同時測定法(5.2.4.3 Opposite arm simultaneous method　5.2.4.3.1 Procedure)について：同一被験者からの最大・最小データの差が SYS で 12mmHg 以上または DIA で 8mmHg 以上差があった場合はその患者のデータは除外する要求を追加することとなった。

[今後の予定]

今回会議の結果を事務局が CD としてまとめ、両規格 amendment の NWIP に添付/発行する。('10/02～05)

次回会議は、'10 年 10 月 27～29 日　場所：リオデジャネイロ／ブラジル　または　北米を予定する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3／SC62D-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2010 年 1 月 26

（報告者記載）予算番号：H21SC62D⑨

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤 正章　報告書作成者氏名：真柄 睦　（会社名）日本光電工業㈱

出席会議名(半角)	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62D/JWG1、JWG5 (半角)
SC62D JWG1 SC62D JWG5	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他	名称 (日本語)	人工呼吸器 パルスオキシメータ
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2010 年 1 月 5 日 ～ 2010 年 1 月 14 日		
開催場所	（国名）アメリカ	（都市名）マサチューセッツ州ケンブリッジ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	John Hedley-Whyte	幹事国 アメリカ	
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 ドイツ、アメリカ、スウェーデン、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、日本、参加人数（14）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 真柄 睦（日本光電工業株式会社）、中根伸一（株式会社ﾒﾄﾗﾝ（ISO 側委員））		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景：JWG1、JWG5 は、ISO/TC121/SC3 と合同 WG で、それぞれ ISO 80601-2-12：集中治療用人工呼吸器、ISO 80601-2-61：パルスオキシメータの個別規格の作成作業を行っている。いずれも ISO 規格であるが、IEC 60601 シリーズと一貫性を持った規格が作成される。

目的：CDV 規格案に対する各国コメントを検討し、規格案の修正作業を行った。

成果：（人工呼吸器）投票結果では、賛成多数で FDIS 作成段階に進むことになったが、650 件を超えるコメントが提出され、さらに海外主要メーカが反対に回っているため、意見の集約に苦慮した。しかも、基本要件や試験手順など、規格の骨格をなす重要な規定に関するコメントも多く、FDIS の発行まで困難かつ多くの作業が予想される。基本要件については、CDV 案の「精度仕様範囲内での換気の供給もしくはアラーム」が現実的ではなく、また精度仕様を多少外れても大きな危害は発生しないことから、「オペレータが設定したアラーム範囲内での換気の供給もしくはアラーム状態」とする方向で意見がまとまった。試験手順については、まだ方針がまとまらず、今後は電話会議で意見集約を図ることとなった。各国で意見が分かれていた電子カルテ接続規定については、メーカの現行製品が何らかのデータ出力を備えていること、米・英・加で電子的なデータ保存が義務化されていることを考慮し、強制（shall）することとした。また、分散型アラームシステムへの接続は推奨（should）、リモートコントロールは許容（may）とした。ただし、CDV で示されていた ASTM 規格の適用を見送り、通信プロトコル、項目・方法等の具体的な規定は行わないことになった。（パルスオキシメータ）CDV の内容に大きな問題になるところはなく、曖昧な言い回しの明確化がメインの作業であった。日本からの「脈拍数計測誤差の評価方法について、最小二乗誤差平均以外の方法も容認する変更」の要求は、「方法を統一した方が比較しやすい」との意見が大勢を占め、残念ながら受け入れられなかった。しかし、特に技術的には大きな問題にならないと思われる。

問題点：人工呼吸器、パルスオキシメータとも CDV が賛成多数で承認され、6 月頃を目処に FDIS を発行する予定となっている。パルスオキシメータについては、大きな問題はないと思われるが、人工呼吸器に関しては、性能評価試験方法等について、まだ合意に達しておらず、かなり作業が必要な状況である。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館） Tel：03-5275-7259 Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3／SC62D-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2010 年 1 月 26 日

（報告者記載）予算番号：H21SC62D⑥

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤 正章　報告書作成者氏名：乾　清、真柄 睦　（会社名）フクダ電子、日本光電工業

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62D/MT22 (半角)
SC62D/MT22	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	診断用及び患者モニタ用医用電子機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2010 年 1 月 18 日 ～ 2010 年 1 月 22 日		
開　催　場　所	（国名）ドイツ	（都市名）フランクフルト	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Klaus Neuder	幹事国　ドイツ	
参　加　国及び 参　加　人　数	4 ヶ国、主な国名 ドイツ、アメリカ、スイス、日本、CEN コンサルタント、参加人数（12）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 乾 清(フクダ電子株式会社)、真柄 睦(日本光電工業株式会社)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

背景：MT22 は、モニタ・診断機器（心電計、脳波計等）に関する IEC 国際規格の改定を担当している。2005 年に大改訂された安全通則 IEC 60601-1:2005 第 3 版に対して、担当する個別規格との整合性を取る改定をしている。

目的：モニタ・診断機器の CDV 規格案に対するコメントを検討し、規格案の修正作業を行った。

成果：アンドーバ会議に出席できなかった CEN コンサルタントからのコメントを中心に、修正規格を検討した。

1)各規格共通項目

・患者安全を考慮して「ALARM OFF」「ALARM PAUSED」「ALARM RESET」の定義を変更する規格案が提示され、それに対し日本を含む各国から副通則からの定義の変更は混乱を招くとのコメントが寄せられた。それに対して、MT22 から 3 月のアラーム JWG 会議への規定見直しの提案を行い、会議の状況を見た上で結論を出すことになった。

・規格内で医療従事者だけを指す部分には、clinical OPERATOR という表記で、範囲を限定することにした。

2)個別規格

・IEC 60601-2-27 心電図モニタ：テレメータを明確にスコープに含めるため、ECG モニタの定義を変更した。

・IEC 60601-2-34 観血血圧モニタ：計測精度をモニタ本体とトランスジューサそれぞれに設定する提案を行ったが、60601 シリーズ規格のポリシー、MDD 指令が、システム全体での精度保証を要求していることから否認された。

・IEC 60601-2-49 多機能モニタ：組み込まれたパラメータの個別規格と要求事項が異なった場合に、この規格が優先するという規定案になっていたが、リスクマネジメントに基づき、どちらを採用するかを決定する規定に修正した。

・IEC 60601-2-23 経皮ガス分圧モニタ：コメントを踏まえて、適用可能な温度条件や試験方法を明確化した。

・IEC 60601-2-25 心電計：2-27 等との水平展開も含め、ハム周波数の 50/60Hz の区別を削除し、入力インピーダンスは 2.5MΩに戻し、CTS テストデータは CD やダウンロード対応として Annex II は全て削除した。次回も討議予定。

・IEC 60601-2-47 ホルタレコーダ、および IEC 60601-2-26 脳波形は、コメントも少なく次回の討議とした。

問題点：CDV 発行後、約 9 ヶ月が経過したが、担当規格の数が多いこともあり、まだ FDIS 案がまとまっていない。中には、コメントの検討が実施されていない規格（脳波計、ホルターECG 等）もあり、それらを検討するため、3 月 15 日の週に、もう一度会議が招集される。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3／TC80-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2010 年 2 月 1 日

（報告者記載）予算番号：H21TC80④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：　田北　順二　（会社名）日本無線（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC80 (半角)
WG6	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	舶用航海および無線通信装置とシステム
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2010 年 1 月 12 日 ～ 2010 年 1 月 14 日		
開　催　場　所	（国名）英国	（都市名）ロンドン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Stefan Steier	幹事国　UK	
参　加　国及び 参　加　人　数	8 ヶ国、主な国名 英、独、米、加、日、韓、ノルウェー、スウェーデン、参加人数（17）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○田北　順二（日本無線）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景　：船舶搭載機器のデジタルインタフェース規格審議、開発のための委員会である。
2．目的　：船用機器に使用するシリアルインタフェースの改訂の審議、イーサーネットを使用した軽量インタフェース新規規格の検討を行う。
3．成果

1) IEC 61162-450 (軽量イーサーネット)　(今回の会議のメイン議題)
次のような規格内容の見直しが行われ、IEC 61162-450 の最新ドラフト(2010-1-14 版)が作成された。
①IEC 61162-450 に適合しない装置のネットワークへの接続の禁止。
②ネットワークに接続される装置は、IEC 60945 に適合すること。(直接航海機器と関係ないインタフェース機器ケーブルは除外)
③メーカは、最大出力データ・レート、平均出力レート（10 秒間)、サポートするプロトコルの種類をドキュメントに記載すること。
④IEC 61162-1 の全センテンスをセンサー（SBM)、マルチセンテンス(MSM）,コマンドセンテンス（CRP）に分類し、適切な転送をすることが要求される。Annex A にセンテンスの分類内容が、Annex C にコマンドセンテンス(CRP)の転送方式を記述している。
⑤TAG block についての記述は、要点のみとし、正式な規格は、NMEA 0183 Ver4.00 の 7 節を参照することになった。また、Annex B の内容も例のみとする。(NMEA 0183 Ver4.00 の参照が重要)また、無効な TAG block が発生した場合は、発生したエラー数のログを取ることになった。
⑥イーサーネットのデータをシリアルデータに変換する際、バッファリングを利用する場合は、データの種類に応じた適切な処理を行うこと。
⑦試験方法と要求結果についての内容を 2 月末までにメンバーで分担して、作成し、3 月に開催予定の次回 WG6 会議で、CDV 案を完成させることになった。

2) IEC 61162-1 Ed4 (現在、CDV 回章中、投票締め切り、4 月 2 日)
①IEC 61162-1 での新センテンスを追加する手順についてのガイドライン(HOWTO)文書を作成することになり、TC80 Secretary が原案を作成し、WG6 Project Leader とメンバーが内容を検討することになった。
②IEC 61108-3 (Galileo 受信機)用のセンテンスを取り込んでいる。

4．次回の会合
3 月 22 日、23 日に英国・ロンドンで、IEC 61162-450 の CDV ドラフト完成のための会議を開催予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
国際標準化対応支援委員会　御中

運営委員会・資料番号：6-3／TC110-①（事務局記入）

提出日：2010 年 2 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H21TC110⑫～⑰

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：加藤慎祐　報告書作成者氏名：加藤慎祐　（会社名）シャープ株式会社

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC110（半角）
TC110	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
WG2,WG4,WG5	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	フラットパネルディスプレイ
PT62595,62629	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他		
HHG,e-Paper	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他	☐単独開催 ☒同時開催	

開催期日	2009 年 12 月 5 日 ～ 2009 年 12 月 8 日	
開催場所	（国名）日本	（都市名）宮崎
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	TC110 御子柴茂生、WG2 石黒勝己、WG4 篠田傳、WG5 Jeong-No Lee、PT62595 Mee-Ryoung CHO、PT62629 Jong-Seo Lee	幹事国　日本
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、韓国、中国、米国、英国、オランダ、参加人数（73）	
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ 林和孝（旭硝子）、上原伸一（NEC 液晶テクノロジー）、濱岸五郎（エプソンイメージングデバイス）、依田優治･大嶋浩正（大塚電子）、前川雄一（コダック）、竹山敏久･兵頭啓一郎（コニカミノルタ）、岡村治男･小野俊彦（コーニング）、篠田傳（篠田プラズマ）、石黒勝己･加藤慎祐（シャープ）、宮崎淳志（セイコーエプソン）、長谷川聡･村山裕･植田充紀（ソニー）、高橋達見（大日本印刷）、御子柴茂生（電気通信大）、平和樹（東芝）、宮崎達哉･久武雄三･分元博文（東芝モバイルディスプレイ）、岩間英雄（日本 CMO）、田中宏典･安藤亨･川島正裕･打土井正孝･松原正治（パナソニック）、木下順一（ハリソン東芝ライティング）、小池崇文（日立）、上原正男（日立ディスプレイズ）、芝原嘉彦（富士フイルム）、櫻井良（ブリジストン）、結城昭正（三菱電機）、三浦守（JEITA）	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

＜背景・目的＞

・液晶・PDP・有機 EL 各デバイスの測定法、環境試験法等の審議に加え、ここ数年各国からの提案が活発化している新規ディスプレイ分野（3D ディスプレイ、バックライトユニット、電子ペーパー）の規格審議を行う。

＜成果＞

・WG2（液晶）：「動画ボヤケ測定法」「反射型測定法」は CDV コメントの審議を終え FDIS へ進める。「透過型測定法」の改定審議では新規項目追加の提案があり、継続審議とした。他、規格体系の番号付けについて新規提案がされた。
・WG4（PDP）：「用語と定義」「光学及び光電測定法」「Visual Quality 測定法」は今後 CDV へ、「パネル強度測定法」は CD へそれぞれ作業を進める。「Acoustic noise 測定法」は preliminary study を終え今後 NP 提案の準備を行う。
・WG5（有機 EL）：「機械的強度試験法」は CD に向けた議論を実施。「Visual Quality 測定法」は 2ndCD のコメントを審議し、3rdCD へ進めることとした。「Image Quality 測定法」は NP 承認され、今後 CD 発行に進める。
・バックライトユニット：「光学測定法（IEC62595）」は NP に対するコメントの紹介、「一般仕様」は今後韓・中の Co-leader にて NP を準備することを確認、「用語と定義」は NP 投票時に出されたコメントについて審議した。
・3D ディスプレイ：「3D ディスプレイ測定法（IEC62629）」は NP のコメント審議を実施、今後早急に CD 文書を発行する。「メガネ式 3D ディスプレイ測定法」は現在 NP 投票期間中で、改めて文書内容が説明された。
・HHG（規格間ハーモナイズ）：用語比較の審議を終了し、比較表をテクニカルレポートの形で発行することとした。
・e-Paper：現在 NP 投票中の「電子ペーパー測定法」について内容紹介を実施。尚韓国からフレキシブルディスプレイの新規提案が出された（後日メール審議の結果、電子ペーパーとは別々に規格を作成することとした）。
・TC110 プレナリー：上記の各 WG・プロジェクトの審議報告に続き、液晶の規格番号付けに関する提案の審議、WG4 のコンベナ交替（篠田氏から打土井氏へ）の報告、Central Office からの報告、ISO とのリエゾン報告等が行われた。

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：6-3／TC110-②（事務局記入）　　様式 9
国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：2010 年 2 月 5 日
予算番号:H21TC110⑫～⑰

国際会議日本開催
経費収支報告書

1．組　　織：　番　号　　TC110
　　名　称（日本語）　フラットパネルディスプレイ

2．会　　議　名：　EC/TC110 国際会議（☐単独開催　☒同時開催）
　　☒TC　☐SC　☐TA　☒WG　☒PT　☒その他

3．開 催 期 日：　2010 年 12 月 5 日 ～ 2009 年 12 月 8 日

4．開 催 場 所：　フェニックス・シーガイア・リゾート「ワールドコンベンションセンターサミット」

単位:円

収入の部		支出の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	600,000 円	会議室料	499,800 円
DD 標準化専門委員会	1,005,318 円	お茶・弁当	217,140 円
	円	機材設備料	547,554 円
	円	懇親会	332,724 円
	円	コピー代	8,100 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	1,605,318 円	合計（b）	1,605,318 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー36 人＋外国人 37 人）］×会議開催日数 4 日×1.5 万円＝438 円

補助請求金額　600,000 円
［補助基準･運用規定の補助率（50 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2010 年 2 月 16 日
申請責任者：　加藤慎祐

※本報告書は、**（様式4）「国際会議報告書」**に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2010.1）